

# カナダの農場で大津壁を施工

レポート：江州左官土舟 坂元 美貴

## 概要

カナダのアルバータ州にある、Harvest Haven Healthというオーガニック農場において、8月1日から22日までの約3週間滞在し、3棟5箇所で大津壁および水硬性石灰を使った壁を施工しました。

お施主さんであるマーク・ベンソンさんは、日本に留学し有機農場経営学を修めており、環境と体に優しい漆喰の壁を取り入れたいという想いが、今回の依頼の要因だと思います。

日本からは、滋賀県の江州左官土舟の小林隆男と坂元美貴。そして、この仕事の紹介者である日本大学の研究生カイル・ホルツヒューターの3名が渡航しました。

## 建物

基礎には、Durisol（デュリゾール）という、木材チップを主原料とした軽量で再生可能なセメントブロックが積み、構造はカナダと日本から招かれた大工さんの手による木造軸組工法が用いられていました。

壁は、Light Straw Clay（軽量ワラ土）またはlight clay（軽量粘土）工法という、型枠の中に藁と液状の土を主体に、混ぜ入れて突き固めるという方法がとられており、その芯には丸竹を横に通す事で安定性が確保されていました。



店舗予定建物内部



Durisolブロック



しっかり詰まった軽量粘土の壁



麻縄を巻付けるベンさん



Light Straw Clayの為の機械



◀ 漆喰練りも皆で楽しんだ。



宿泊施設全景



▶ 宿舎 / 全員で下塗り



店舗 / 櫛目模様を見て「壁がアートになるなんて」と驚いていた



玄関 / 中塗り前



玄関 / 鏝を通す小林親方



温室 / 大津を塗り付ける坂元とカイル



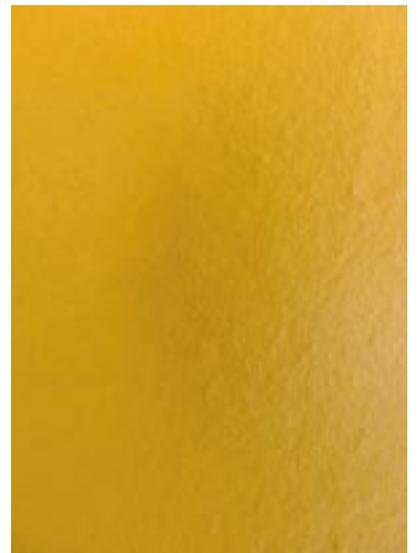
温室 / 下地処理中



ポンプ室全景



ポンプ室 / 散水により下の木材が暴れて、壁がひび割れた



この肌合いが大津の持ち味

## 材料

用意された石灰は2種類で、Type-N (Normal)とType-S (Special)があり、漆喰と大津の際にはType-Sを使い、その他の際にはフランスから輸入された水硬性石灰を使用しました。

しかし、そもそも今回使ったカナダの消石灰はMg分が多く、日本でいうところのドロマイトと同じ物で、石灰の代用として漆喰を練ったところ通常の半分程の量になってしまいました。

土は、ブリックタイルを作る為の乾燥強度の高いもので、塗り付けた土は乾燥後、大津壁よりも強度があるように感じましたが、押さえがききにくい事と色の点で仕上げには向いていないと思われます。

スサは小麦スサで、繊維が強く腐りにくいところが大変壁に向いていると思われました。しかし、硬くて長い芯とアクが難点です。

そして、天然または自然鉱石由来のAmerican Cry (アメリカンクレイ)という色土も使用しました。3パターンの基調色と40色以上の色粉があり、乾いた後も濡らす事で再び押さえのきく不思議な材料でした。欧米では、セルフビルドの分野でよく使われているそうです。

## 職人

作業人数は約9名で、そのうち、石灰に強いこだわりを持つThe Lime Plaster Companyのベン・スコットさんと、アメリカンクレイの分野で著名なClaymastersのゲリーとフィリップさん3名が、カナダの職人さ

んでした。

コテ板はステンレスで真四角(減り)にくく切れが良いという利点と、音が悪いという欠点)な他、道具も角鏝を多用していました。材料を鏝に乗せ、叩き付けるように塗る様は、日本の職人の動きとは全く違う力強さがありました。

## 仕事

### ・Bunk House(宿泊施設)

木ずり下地や取合い等には、防水フェルトとヨシズを張り砂漆喰で下ごすりして、柱には檜垣を入れ、窓枠には麻縄を巻いた板を付けるという下地処理をしました。その後、1度目の水硬性石灰塗りと櫛目つけをし、乾燥後前日から散水して2度目の水硬性石灰塗りと共に寒冷紗を張り、追いかけて中塗りをして終了としました。

この下塗りが初めての全員作業で、道具の持ち方、使い方、材料と壁への考え方の違い等が見える中、意見交換をした結果、多くの場面で日本のやり方と考え方が取り入れられました。

### ・Store House(店舗)

下地処理後、建物の外側を水硬性石灰で下塗りしました。

塗った壁には、櫛目をいれました。

### ・店舗正面玄関

下地処理後、土を付け、乾燥を待って寒冷紗を張り、追いかけて塗り、更に中塗りをし、仕上げは未来を内包する黄色の大津壁です。

### ・Green House(温室)

店舗の南側にあるオープンスペースです。下地処理後、乾く前に土で下塗りをし、その後2度土を付け、中塗りをして、仕上げは、削り取られてもなお残る大地の赤い大津壁です。

### ・ポンプ室

下地処理後、水硬性石灰で下塗りをし、乾燥後、前日から、散水して色粉入りの水硬性石灰を塗りましたが、水引きが強過ぎたため散水しながら塗り付けました。

最終的には、配合を変えてスポンジで拭き取るような大理石模様に仕上げました。

## 感想

大津壁を見て、『見たら解るよ!』と、カナダの皆さんは良さを認め、感動して下さいました。私はその手放しの言葉に、何とも言えない喜びと共にやるせなさを感じました。

日本では理解されない美点を、海外の方に認めてもらうということ。外に出てみなければ分からない、客観的な判断と内に具わる感覚に気付かされる3週間でした。

## 連絡先

江州左官 土舟

〒524-0045

滋賀県 守山市 金森町911

ブログ「土舟のすゝめ」

<http://dosyuu.exblog.jp/>